

その昔、日本のみた世界 —明治期の日記、見聞記を中心に—

平成5年4月27日(火)～5月21日(金)

今はまさに行楽シーズン。現在は手軽に海外旅行ができる時代ですが、そうはいかなかった時代もあります。そんな時代にも多くの人が海の向こうへ期待と憧れをもって出かけて行きました。彼らが目にしたものは何だったのか？ 日記などを通して当時の世界を見るのも一興でしょう。

展示資料リスト

<>は請求記号

1. 南方熊楠日記 1 (1885～1896)
長谷川興蔵校訂 八坂書房 1987 458p <GK83-84>
南方が20歳代前半に体験した在米生活の日記。この頃は地衣類や菌類の採集にあけていた。
2. 津田梅子文書
津田塾大学編 小平 津田塾大学 1980 103, 601p <GK141-31>
洋罫紙51枚に書き綴られた滞英日記。ナイティンゲール訪問記も見られる。
3. 環游日記 下編
黒田清隆著 [出版者不明] 1887 495p <24-120>
4. 独逸日記
森鷗外著 富士出版 1948 235p <915.6-Mo45ウ>
明治17年10月から明治21年5月までの滞独日記
5. 西伯利亚日記 和二冊

榎本武揚著、榎本春之助寫 海軍有終会 1935 <301-56>

明治11年7月から同年9月にかけて記された、サンクト・ペテルブルクからウラジオストックまでの旅行記

6. 西遊日誌

永井荷風著 『文明』13号 1917年4月 <雑8-154>

1905年12月から1907年7月にかけての滞米・滞佛日記

7. 板垣君欧米漫遊録 第1、2編(合本)

清水益次郎編 大坂 清水益次郎 1883 23、26p <特17-242>

「板垣君」とは板垣退助のこと。「板垣君」が明治15年11月から12月にかけて行った漫遊旅行に随行した編者の日記

8. 西藏旅行記 下巻

河口慧海著 博文館 1904 456p <292.29-Ka754t>

著者が1899年から1902年にかけてチベットを旅行したときの報告。1909年にはロンドンで英語版も出版されている。

9. 三十三年之夢

宮崎滔天著 国光書房 1902 278p <93-285>

動乱の中国に渡り、辛亥革命の代表者・孫文を支持、助力した著者の33歳までの自叙伝。孫文が巻頭の序文を寄せている。

10. 西洋旅案内 和三冊

福沢諭吉著 慶応義塾出版局 1873 <特31-672>

その名の通り欧米を訪れるに際しての旅行案内

11. 倫敦消息

夏目漱石著 『ホトトギス』4巻8号 1901年5月 <Z13-233>

ロンドン留学中の著者が正岡子規に送った手紙

12. 鉄脚縦横(五大洲探検記第3巻)

中村直吉、押川春浪編 博文館 1910 290p <95-74>

この巻の他に「亜弗利加一周」等がある。冒険小説家が書いた小説的探検記